

# J A グループ宮城 災害復興ニュース ( 総合版 )

第 5 7 号

【平成 25 年 10 月 7 日 ( 月 ) 発行】  
発行：J A グループ宮城災害復興本部  
編集：J A 宮城中央会  
〒980-0011 仙台市青葉区  
上杉 1 丁目 2 番 16 号 JA ビル宮城 6F  
電話番号：022-264-8207  
FAX 番号：022-216-4466  
E-mail：jataisaku@gmail.com

## 《目次》

1. 県選出国會議員に、震災復興の加速化と T P P は「脱退も辞さない」交渉を要請
2. 「国益守れないなら脱退を」。反 T P P 県民集会に 2,000 人
3. 村井知事に復興加速、原発事故対策などを要請
4. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第 25 次請求
5. 「仙台白菜」で復興応援。宮農高と明成高校の生徒が定植
6. 「おいしさに太鼓判」。みやぎの環境保全米県民会議が新米試食会
7. 5 J A 青年部が復興支援に感謝し「農魂祭—百姓（おれたち）からのありがとう」開催

### 1. 県選出国會議員に、震災復興の加速化と T P P は「脱退も辞さない」交渉を要請

J A 宮城中央会と宮城県農協政治連盟は 10 月 2 日、東京都内で「震災復興の加速化と T P P 交渉に関する宮城県 J A 代表者要請集会」を開き、県選出国會議員に、東日本大震災からの復興加速化と、T P P は脱退も辞さない不退転の覚悟で交渉するよう要請しました。

國會議員は、自民党の小野寺五典防衛大臣、愛知治郎財務・復興副大臣、土井亨国土交通政務官、秋葉賢也、西村明宏、伊藤信太郎、大久保三代の各議員、公明党の井上義久幹事長、日本維新の会の中野正志議員の 9

人が本人出席。自民党の熊谷大、民主党の郡和子議員は秘書が代理出席しました。

J A グループ宮城はこの日、日比谷野外音楽堂で雨の中、開催された「T P P 交渉から『食と暮らし・いのち』を守り国会決議の実現を求める全国代表者集会」に組織代表者など約 70 人が参加しました。米、麦、牛肉など重要 5 品目を守る、との衆・参農林水産委員会の決議を遵守するよう求める集会決議を採択。一行はその後、県 J A 代表者要請集会に参加しました。

集会では J A いしのまきの石川壽一組合長、J A みやぎ登米の榊原勇組合長、県農協青年連盟の相澤宏樹副委員長、J A みやぎ女性組織協議会の加藤重子副会長が、現場の窮状を訴えました。

出席議員は「T P P 交渉については我々も内容を知らされていないが、国会決議を遵守するよ



うしっかり声をあげていく」と、支援を表明しました。また、兼務で就任したばかりの愛知治郎財務・復興副大臣は「復興に関する予算は1円とも削らず確保していく」と断言しました。

## 2. 「国益守れないなら脱退を」。反TPP県民集会に2,000人

TPPから食とくらし・いのちを守るネットワーク宮城とJAグループ宮城は9月2日、仙台市役所前の市民広場で「TPPから『食とくらし・いのち』を守る県民集会」を開きました。約2,000人が結集し政府に交渉内容の情報開示と、国益を守れない場合は交渉からの即時脱退を求める、との決議を採択しました。

集会には、伊藤信太郎、秋葉賢也、西村明宏、大久保三代（以上、自民党）、若松謙維（公明党）、郡和子（民主党）、紙智子（共産党）の各国会議員7人が出席。それぞれ連帯と激励の挨拶を行いました。参加者は集会後、小雨の降る中、「食の安全と安心を守れー」などとシュプレヒコールを繰り返しながら、市内中心部をデモ行進しました。



デモ行進するJA宮城中央会、県生協連、県漁連の各会長ら

デモ行進するJA宮城中央会、県生協連、県漁連の各会長ら

## 3. 村井知事に復興加速、原発事故対策などを要請

JAグループ宮城は9月4日、仙台市内で村井嘉浩県知事、県農林水産部幹部らと懇談会を開き、東日本大震災からの復興や原発事故対策、農業振興について意見交換しました。JAグループからは県内14JAの全組合長や県連代表などが出席しました。

JAグループは、震災復興に関連し、圃場整備事業支援対策や農業生産対策交付金の継続確保など、国に対して強力な働きかけをするよう要請しました。原発事故による汚染稲わら・堆肥などの早期処分についても、一刻も早い改善に取り組むよう求めました。村井知事は「復旧にとどまらず、農業振興に向けて皆さんの意見を聞きながら頑張っていきたい」と語りました。

## 4. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第25次請求

JAグループ東京電力原発事故農畜産物損害賠償対策宮城県協議会は9月26日、東電への第25次請求を3億3,200万円とすることを決め、30日に請求しました。肉牛の損害賠償請求方式を、「原価積み上げ方式」から「価格下落率方式」に移行する件は、移行実施時期について東電との交渉が難航していたが、7月と畜（販売）分までは従来通りとし、8月と畜（販売）分から「価格下落率方式」に移行することで東電と合意の方向になりました。このため、今回の請求には肉牛等の損害は含まず、次回請求に計上することにしました。

9月25日現在、同協議会の請求総額は285億円。受領総額は181億9,200万円で請求対比63.8%となっています。

## 5. 「仙台白菜」で復興応援。宮農高と明成高校の生徒が定植

JA全農みやぎが、みやぎ生協などと取り組んでいる「みんなの新しいふるさとづくりプロジェクト」の一環として9月1日、宮城県農業高校（名取市）と明成高校（仙台市）の生徒約20人が、名取市の園地20㍍に「仙台白菜」などの苗、約6,000株を植えました。今後、品種の特徴を活かした料理を考案し、全農みやぎのアンテナショップ「COCORON（こころん）」で食べ比べできるようにしていく予定です。

## 6. 「おいしさに太鼓判」。みやぎの環境保全米県民会議が新米試食会

みやぎの環境保全米県民会議、JA宮城中央会、JA全農みやぎは10月1日、仙台市のJAビル宮城で2013年産米の新米試食会を開きました。同会議のメンバーや国会議員、県議会議員ら約60人が、JA栗っこ産の「ひとめぼれ」「ササニシキ」とJAみやぎ仙南産の「つや姫」の3種類を試食しました。

同会議の菅原章夫会長（JA宮城中央会会長）は「今年の環境保全米は安全・安心はもちろん、さらにおいしいお米に仕上がっている。首都圏の皆さんにも宮城米のおいしさを存分に味わってほしい」と語りました。



## 7. 5JA青年部が復興支援に感謝し「農魂祭—百姓（おれたち）からのありがとう」開催

仙台、あさひな、いしのまき、名取岩沼、古川の5JAの青年部が9月14日、仙台市役所前の市民広場で、「農魂祭—百姓（おれたち）からのありがとう」を開きました。東日本大震災からの復興を支援してくれた消費者の感謝の気持ちを伝えようと、1年前から準備を進めてきました。

各青年部などが出店し、野菜や加工品などを販売。子どもたちによるチアリーディングやヒップホップのステージなども行いました。JA仙台青年部の佐藤善伸委員長は「青年部同士のつながりをこれまで以上に強くして、農業の大切さをPRしていきたい」と語りました。